The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	成人期における発達課題
Author(s)	榎本, 博明
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2000, 26, p. 65-83
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/9246
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

成人期における発達課題

榎　本　博　明

目　次

問題と目的
方法
結果と考察
　1．成人期の課題の重要度
　　――回答者のライフステージによる違い
　2．成人前期および後期に重要な課題

成人期における発達課題

榎本　博明

問題と目的

生涯発達という視点が発達心理学に導入されることにより、成人期の発達過程を解明する必要性が浮上してきた。ところが、発達心理学領域の研究成果をみるかぎり、乳幼児期、児童期そして青年期に関するものが大部分を占め、さらには老年期に関するものも蓄積されつつあるが、成人期に関するものの少なさが目立つように思われる。性的な発達と異性との関わり、両親からの自立、職業選択、価値観の形成といった華々しい課題に満ちており、また教育の対象ともみなされる青年期とは対照的に、成人期は揺れ動く青年期のあとにやってくる比較的安定した平穏な時期とみなされ、発達心理学の対象としてはあまり注目されてこなかった。成人期における発達ということが発達心理学の研究テーマとして取り上げられるようになったのは、発達心理学史上ではごく最近のことといえる。従来心理的発達というときに成人するまでを射程に置いていたことは、発達段階論を代表するFreudの心理・性的発達段階論やPiageの認知的発達段階論において、最終段階に達するのが青年期であることに端的に現れている。しかし、高齢化社会の進展により1970年代以降老年心理学が興隆したのに続いて、寿命の延びに加えて社会変動の激しさが中高年の適応上の問題を深刻化させたり、成人初期における自己決定の困難をもたらすなど、成人期が意外にも多くの適応上の問題をはらんでいることが認識されるに至った。それにより、青年期までの上昇過程と老年期の下降過程の間に位置し（上昇／下降といった見方は議論の余地のあるものであるが）、単なる移行期として等閑視されがちであった成人期あるいはその後半部分に相当する中年期の心理的問題も、発達心理学上の重要なテーマとして注目されるようになってきた。

ところで、発達課題（developmental task）という概念は、Havighurstにより1940年代に提起されたものである（Heymans, 1994）。発達段階についての研究はそれまでにもみられたが、発達課題という観点から人間の生涯にわたる発達をとらえようとする視点は、新しいものであった。Havighurst（1948, 1953）は、人間の生涯を6つの段階に区分し、各発達段階においてなすべきことが期待されている課題を提示した発達課題論において、成人期以降の発達課題にも触れているが、教育心理学者としての関心はあくまでも青年期までの発達にあり、成人期以降については簡単に触れるにとどまっている。

Erikson（1950）も同じく今世紀半ばに、臨床的経験の基礎の上に伝記的研究を用いて、

人間の生涯を８つの発達段階に分けた心理・社会的発達段階論を唱え、成人期以降の危機とその克服について論じているが、とくに成人期に焦点を当てて論じたのは、1970年代になってからのことである（Erikson, 1978)。このEriksonの発達段階論も、各発達段階における危機とその克服という形で発達課題を扱っているとみなすことができる。

Peck（1975）は、Eriksonの発達段階論が人生の前半ばかりを詳細に扱っていることから、成人期を拡大して人生後半の各発達段階の課題と危機をより詳細に論じている。また、Levinson（1978）も、Eriksonの発達段階論をもとに、とくに成人期に焦点を当てて、成人期の生活構造と発達課題をめぐって生活史的研究をすすめている。

発達課題の概念は、1980年代に復活し（Oerter, 1986；Baltes, 1987)、人生課題（life task: Cantor et al., 1987；Zirkel & Cantor, 1990）のような類似概念とともに再び注目され始めている。しかし成人期の各発達段階における課題を具体的に取り上げた研究はほとんどみられない。そこで、本研究は、成人期において重要な課題について検討することを目的としている。その際、青年期から老年期にいたる各ライフステージにある者が成人期の各課題の重要性をそれぞれどのようにみているか、その見方の相違に焦点を当てることとする。

方　法

Erikson（1950）やHavighurst（1948）は、青年期以降を４つの発達段階に区分しているが、本研究においても、青年期以降を青年期（10代～20代)、成人前期（30代～40代)、成人後期（50代から65歳未満)、老年期（65歳以上）の４つのライフステージに区分することにした。

発達課題に関しては、Neugarten & Datan (1973) による職業、健康、体力、家族周期(入学、卒業、結婚、空の巣など)、心理的属性(性格の発達)という５つの軸、Wadsworth & Ford (1983) による仕事や学校、家庭生活、社会生活、余暇、個人的成長とその維持、物質的／環境的なもの、その他一般的なものという７領域、Oerter（1986）による時間、家族の役割、職業的経歴と余暇、社会的・政治的役割、性格的発達、健康という分類を参考にし、さらに榎本（1987）による精神的自己の知的側面、情緒的側面、志向的側面、身体的自己の外見的側面、機能・体質的側面、性的側面、社会的自己の私的人間関係の側面、公的役割関係の側面、物質的自己、血縁的自己、実存的自己という自己の分類も参考にして、調査項目の欄に記した18領域の課題を設定した。

被調査者　二段階層化抽出により名古屋市民の中から成人3000名を無作為に抽出した。有効回収票数は795であった（男性311名、女性462名、性別不詳22名、年齢：22～88歳)。

調査方法・日時　郵送法を用いた。1996年11月下旬から12月初旬にかけて質問票を発送し、1997年３月までに返送されてきたものを分析の対象とした。

調査項目　知的能力や学歴、情緒的・性格的な問題、主義や信念、容姿・容貌、健康

・体力、運動神経、性的な問題、人からの評価や評判、職業や社会的地位、衣服や装身具、住居、財産・収入、親子のかかわり、配偶者とのかかわり、親族とのかかわり、故郷とのかかわり、地域・近隣とのかかわり、社会・政治とのかかわりの18領域の課題を設定した。そして、自分自身の生涯を青年期（10代～20代）、成人前期（30代～40代）、成人後期（50代～65歳未満）、老年期（65歳以上）の４つのライフステージに区分した場合、それぞれのライフステージにおいてこれらの課題が自分にとってどの程度重要であったか（またその年代に達していない場合は、重要になると思うか）を５段階評定により答えさせた。（本稿で報告するのは、このうちの成人前期および後期に関する回答の分析結果である。）

結果と考察

１．成人期の課題の重要度――回答者のライフステージによる違い

成人前期および後期に各課題が自分にとってどの程度重要であったか（重要になると思うか）との問いに対する回答が、回答者のライフステージごとにTable１およびTable２に示されている。

Table１は自分自身の成人前期および後期における各課題の重要度に関する男性の回答を４つのライフステージごとに集計したものである。Table２は自分自身の成人前期および後期における各課題の重要度に関する女性の回答を４つのライフステージごとに集計したものである。Table１に示したように、男性においては、18課題中成人前期に関して４課題で４つのライフステージの評定者間に有意差が、２課題でそれに準じる差がみられ、成人後期に関しては５課題で有意差が、２課題でそれに準じる差がみられた。また、Table２に示したように、女性においては、18課題中成人前期に関して14課題で４つのライフステージの評定者間に有意差がみられ、成人後期に関しては18課題すべてで有意差がみられた。したがって、自分自身にとって成人期の課題の重要性に関する見方については、男性よりも女性において年代による違いが大きいことがわかる。

再びTable１をみると、成人前期に関しても、後期に関しても、その時期における課題の重要度は、今まさにそのライフステージにある者においてとくに高く評価されていることがわかる。

すなわち、Table１(a)において、成人前期における18課題の重要度評定をその前後にあたる青年期および成人後期にある男性と今現在まさに成人前期にある男性との３者で比較してみると、18課題中12課題において成人前期にある男性の評定が最も高く、青年期および成人後期にある男性の評定が最も高くなったのはそれぞれ３課題ずつであった（青年期にある男性の評定が最も高くなったのは「人からの評価や評判」「職業や社会的地位」「衣服や装身具」の３つ、成人後期にある男性の評定が最も高くなったのは「運動神経」「住居」「地域・近隣とのかかわり」の３つであり、他の課題では成人前期にあ

Table 1　成人期男性の発達課題
(a)成人前期

	青年期 N=39 M (SD)	成人前期 N=117 M (SD)	成人後期 N=101 M (SD)	老年期 N=54 M (SD)	f値	有意水準
知的能力や学歴	3.36(1.35)	3.76(0.93)	3.65(1.29)	4.07(1.23)	3.06	*
情緒的・性格的な問題	3.82(1.45)	3.99(0.77)	3.68(1.16)	3.80(1.17)	1.52	
主義や信念	4.08(1.40)	3.94(0.84)	3.84(1.16)	4.11(1.11)	0.93	
容姿・容貌	2.38(1.11)	2.86(0.95)	2.77(1.17)	3.09(1.14)	3.41	*
健康・体力	3.94(1.34)	4.17(0.70)	4.05(1.18)	4.44(1.04)	2.34	+
運動神経	3.03(1.31)	3.29(0.90)	3.51(1.24)	3.78(1.09)	4.31	**
性的な問題	3.18(1.23)	3.23(0.96)	3.18(1.08)	3.44(1.02)	0.85	
人からの評価や評判	3.95(1.32)	3.72(0.90)	3.53(1.18)	3.91(1.10)	2.09	
職業や社会的地位	3.92(1.36)	3.81(0.78)	3.51(1.24)	3.93(1.11)	2.66	*
衣服や装身具	2.92(1.22)	2.84(0.90)	2.80(1.09)	3.13(1.06)	1.32	
住居	3.49(1.35)	3.58(0.90)	3.60(1.19)	3.65(1.08)	0.17	
財産・収入	3.90(1.39)	3.99(0.74)	3.69(1.18)	3.83(1.08)	1.49	
親子のかかわり	3.74(1.52)	4.03(0.80)	3.91(1.25)	4.13(1.05)	1.11	
配偶者とのかかわり	4.08(1.40)	4.09(1.08)	4.04(1.19)	4.37(1.01)	1.05	
親族とのかかわり	3.31(1.47)	3.83(0.83)	3.65(1.20)	3.72(1.12)	2.23	+
故郷とのかかわり	3.00(1.52)	3.26(1.02)	3.11(1.20)	3.26(1.17)	0.67	
地域・近隣とのかかわり	3.23(1.33)	3.30(0.95)	3.35(1.18)	3.44(1.09)	0.34	
社会・政治とのかかわり	3.41(1.48)	3.45(0.90)	3.35(1.17)	3.44(1.08)	0.19	
計	62.74(20.47)	65.15(8.03)	63.24(16.60)	67.56(15.57)	1.33	

+ p<.10　* p<.05　** p<.01　*** p<.001　N=311

るものの評定が最も高い)。

Table 1 (b)において、成人後期における18課題の重要度評定をその前後にあたる成人前期および老年期にある男性と今現在まさに成人後期にある男性との3者で比較してみると、18課題中9課題で成人後期にある男性の評定が最も高く、老年期にある男性の評定も10課題で最も高くなっていた（1つの課題で両者の評定が等しい)。

老年期にある男性は、成人前期に関しても後期に関しても他のライフステージにある男性よりも各課題の重要度を高く評価する傾向があるので、つぎに成人期（前期および後期）にある男性のみに絞って比較を行ってみたい。まず、成人前期における各課題の重要度に関して、成人前期にある男性と後期にある男性の評定を比較すると、18課題中15課題において、成人前期にある男性のほうがその重要度を高く評定している。一方、成人後期における各課題の重要度に関して、成人前期にある男性と後期にある男性の評定を比較すると、18課題すべてにおいて、成人後期にある男性のほうがその重要度を高

Table 1　成人期男性の発達課題
(b)成人後期

	青年期 N=39 M (SD)	成人前期 N=117 M (SD)	成人後期 N=101 M (SD)	老年期 N=54 M (SD)	f値	有意水準
知的能力や学歴	2.77(1.48)	3.05(1.30)	3.45(1.20)	3.52(1.34)	4.20	**
情緒的・性格的な問題	3.87(1.44)	3.64(1.28)	3.78(0.91)	3.69(1.26)	0.49	
主義や信念	3.95(1.43)	3.47(1.36)	3.73(1.07)	3.94(1.31)	2.45	+
容姿・容貌	2.33(1.26)	2.38(1.11)	2.75(1.16)	3.13(1.18)	6.40	***
健康・体力	4.08(1.36)	4.05(1.32)	4.28(0.90)	4.28(1.25)	0.89	
運動神経	3.00(1.40)	3.04(1.27)	3.65(1.03)	3.54(1.27)	6.04	***
性的な問題	2.67(1.28)	2.80(1.27)	2.99(1.00)	3.15(1.12)	1.79	
人からの評価や評判	3.79(1.44)	3.30(1.27)	3.56(1.19)	3.74(1.25)	2.41	+
職業や社会的地位	3.67(1.49)	3.33(1.26)	3.64(1.17)	3.98(1.27)	3.44	*
衣服や装身具	2.51(1.21)	2.60(1.15)	2.94(1.09)	3.02(1.07)	3.24	*
住居	3.77(1.42)	3.62(1.22)	3.91(1.06)	3.81(1.25)	1.06	
財産・収入	3.97(1.37)	3.85(1.23)	4.04(1.09)	3.89(1.24)	0.50	
親子のかかわり	3.90(1.47)	3.85(1.27)	4.20(0.93)	4.00(1.21)	1.62	
配偶者とのかかわり	4.10(1.37)	4.08(1.26)	4.39(0.91)	4.22(1.22)	1.39	
親族とのかかわり	3.59(1.58)	3.70(1.20)	3.91(1.05)	3.63(1.26)	1.05	
故郷とのかかわり	3.46(1.52)	3.26(1.23)	3.30(1.20)	3.09(1.26)	0.67	
地域・近隣とのかかわり	3.59(1.45)	3.43(1.21)	3.46(1.16)	3.50(1.24)	0.19	
社会・政治とのかかわり	3.18(1.50)	3.27(1.21)	3.35(1.16)	3.52(1.18)	0.71	
計	62.21(20.49)	60.73(17.56)	65.33(12.23)	65.65(18.32)	1.86	

+ p<.10　* p<.05　** p<.01　*** p<.001　N=311

く評価している。すなわち、成人前期にある男性は、ほとんどの課題に関して、この先成人後期になってからよりもまさに今自分が生きている成人前期において重要な課題となっているとみなしている。同様に、成人後期にある男性は、すべての課題に関して、成人前期の頃よりもまさに今自分が生きている成人後期において重要な課題となっているとみなしている。

つぎにTable 2をみると、男性の場合と同様に、成人前期に関しても、後期に関しても、その時期における課題の重要度は、今まさにそのライフステージにある者においてとくに高く評価されていることがわかる。

Table 2(a)において、成人前期における18課題の重要度評定をその前後にあたる青年期および成人後期にあたる女性と今現在まさに成人前期にある女性との3者で比較してみると、18課題中11課題において青年期にある女性の評定が最も高く、成人前期にある女性の評定は5課題、成人後期にある女性の評定は3課題で最も高くなっている。すな

Table 2　成人期女性の発達課題
(a)成人前期

	青年期 N=78 M (SD)	成人前期 N=208 M (SD)	成人後期 N=126 M (SD)	老年期 N=50 M (SD)	f値	有意水準
知的能力や学歴	3.51(1.09)	3.45(1.04)	3.57(1.18)	3.10(1.73)	1.98	
情緒的・性格的な問題	4.03(1.08)	3.96(0.88)	3.78(1.19)	3.18(1.65)	7.55	***
主義や信念	3.94(1.10)	3.79(0.88)	3.65(1.13)	3.16(1.71)	5.75	***
容姿・容貌	3.01(1.17)	3.05(0.86)	3.02(0.97)	2.58(1.54)	2.90	*
健康・体力	4.17(1.04)	4.15(0.82)	4.17(1.14)	3.94(1.70)	0.63	
運動神経	3.24(1.11)	3.14(0.95)	3.64(1.14)	3.40(1.71)	5.37	**
性的な問題	3.21(1.00)	3.05(0.82)	3.16(1.08)	2.84(1.61)	1.59	
人からの評価や評判	3.69(1.11)	3.48(0.94)	3.50(1.16)	2.96(1.65)	4.48	**
職業や社会的地位	3.71(1.11)	3.42(0.95)	3.46(1.21)	3.02(1.61)	3.72	*
衣服や装身具	3.26(1.10)	3.04(0.92)	3.00(1.07)	2.50(1.45)	5.35	**
住居	3.74(0.99)	3.81(0.88)	3.74(1.15)	3.74(1.68)	5.27	**
財産・収入	4.05(1.01)	4.04(0.82)	3.92(1.06)	3.36(1.75)	6.01	***
親子のかかわり	4.15(1.09)	4.32(0.82)	4.14(1.21)	3.62(1.81)	5.25	**
配偶者とのかかわり	4.24(1.19)	4.32(0.81)	4.19(1.18)	3.48(1.95)	7.34	***
親族とのかかわり	3.79(1.06)	3.84(0.84)	3.83(1.12)	3.44(1.74)	1.93	+
故郷とのかかわり	3.50(1.11)	3.46(0.98)	3.39(1.15)	2.92(1.75)	3.23	*
地域・近隣とのかかわり	3.73(1.10)	3.67(0.84)	3.60(1.10)	2.98(1.68)	6.19	***
社会・政治とのかかわり	3.74(1.02)	3.37(0.87)	3.45(1.06)	2.70(1.64)	10.24	***
計	66.72(14.98)	65.35(8.78)	65.21(15.31)	56.32(26.95)	6.13	***

+ p<.10　* p<.05　** p<.01　*** p<.001　N=462

わち、ここでは今まさに成人前期にある女性よりもこの先成人前期を迎えることになる青年期にある女性のほうが各課題の成人前期における重要度を高く評価している。

Table 2 (b)において、成人後期における18課題の重要度評定をその前後にあたる成人前期および老年期にある女性と今現在まさに成人後期にある女性との3者で比較してみると、18課題すべてにおいて成人前期や老年期にある女性よりも成人後期にある女性の評定のほうが高くなっていた。

青年期にある女性は、成人前期に関しても成人後期に関しても、他のライフステージにある女性よりも各課題の重要度を高く評価する傾向があるので、つぎに成人期（前期および後期）にある女性のみに絞って比較を行ってみたい。まず、成人前期における各課題の重要度に関して、成人前期にある女性と後期にある女性の評定を比較すると、18課題中11課題において成人前期にある女性のほうがその重要度を高く評定し、成人後期にある者のほうが評定が高いのは7課題であった。一方、成人後期における各課題の重

Table 2　成人期女性の発達課題
(b)成人後期

	青年期 N=78 M (SD)	成人前期 N=208 M (SD)	成人後期 N=126 M (SD)	老年期 N=50 M (SD)	f値	有意水準
知的能力や学歴	3.14(1.09)	2.86(1.27)	3.15(1.08)	2.70(1.58)	2.80	*
情緒的・性格的な問題	3.87(1.07)	3.67(1.34)	3.75(1.02)	3.10(1.74)	4.19	**
主義や信念	3.77(1.14)	3.48(1.37)	3.58(1.08)	3.10(1.68)	2.85	*
容姿・容貌	2.78(1.22)	2.51(1.15)	2.93(0.98)	2.42(1.44)	4.39	**
健康・体力	4.26(1.06)	4.07(1.39)	4.39(1.00)	4.84(1.79)	2.79	*
運動神経	3.13(1.18)	2.92(1.28)	3.57(1.05)	3.42(1.75)	7.65	***
性的な問題	2.83(0.96)	2.46(1.06)	2.80(0.88)	2.54(1.63)	3.80	**
人からの評価や評判	3.51(1.16)	3.14(1.30)	3.50(1.06)	3.08(1.56)	3.45	*
職業や社会的地位	3.45(1.15)	3.05(1.28)	3.31(1.14)	2.86(1.57)	3.44	*
衣服や装身具	3.05(1.20)	2.75(1.22)	2.94(0.95)	2.44(1.42)	3.40	*
住居	3.99(1.11)	3.65(1.36)	4.07(1.01)	3.46(1.67)	4.57	**
財産・収入	4.08(1.07)	3.84(1.33)	4.21(0.83)	3.56(1.69)	4.56	**
親子のかかわり	4.38(1.10)	3.93(1.37)	4.25(0.93)	3.66(1.76)	5.07	**
配偶者とのかかわり	4.37(1.19)	4.01(1.38)	4.31(1.08)	3.74(1.84)	3.56	*
親族とのかかわり	3.99(1.12)	3.60(1.33)	3.94(0.90)	3.46(1.80)	3.71	*
故郷とのかかわり	3.67(1.21)	3.32(1.34)	3.50(1.06)	2.98(1.71)	3.38	*
地域・近隣とのかかわり	4.03(1.04)	3.57(1.29)	3.75(0.88)	3.18(1.70)	5.64	***
社会・政治とのかかわり	3.78(1.04)	3.23(1.24)	3.40(1.08)	2.74(1.61)	8.12	***
計	66.23(15.33)	60.07(19.00)	65.36(10.94)	56.28(26.34)	5.60	

+ p<.10　* p<.05　** p<.01　*** p<.001　N=462

要度に関して、成人前期にある女性と後期にある女性の評定を比較すると、18課題すべてにおいて、成人後期にある女性のほうがその重要度を高く評定している。すなわち、成人前期にある女性は、多くの課題に関して、今後成人後期になってからよりもまさに今自分が生きている成人前期において重要な課題となっているとみなしている。同様に、成人後期にある女性は、すべての課題に関して、成人前期の頃よりもまさに今自分が生きている成人後期において重要な課題となっているとみなしている。

以上のように、成人前期および後期における各課題の重要度は、男性においても女性においても、基本的には今そのライフステージを生きている者によって高く評定されている。ただし、男性では老年期にある者が過去において経験した各ライフステージにおける各課題の重要度を他のライフステージにある者より高く評定する傾向があり、女性では逆に青年期にある者がこの先経験するであろう各ライフステージにおける各課題の重要度を他のライフステージにある者よりも高く評定する傾向がある。

2．成人前期および後期に重要な課題

成人前期および成人後期における重要度評定の高い課題を並べたのがTable 3およびTable 4である。

(1) 成人前期の男性において重要な課題

Table 3は、男性において重要度を高く評定された課題を並べたものである。成人前期に重要な課題をみると(Table 3(a))、4.0以上の重要度評定は、青年期男性により2つ、成人前期男性により5つ、成人後期男性により2つ、老年期男性により5つの課題に対して与えられている。青年期や成人後期といった前後のライフステージにある者は、成人前期における各課題の重要度をそれほど重くみていないが、まさに今成人前期にある者にとっては重く受けとめられていることが、ここでも確認された。また、老年期にあ

Table 3　成人期に重要な課題（男性）

(a)成人前期

	青年期	成人前期	成人後期	老年期
4.40				健康 配偶者
4.20				
		健康		親子　主義
4.00	主義　配偶者	配偶者　親子	健康　配偶者	知的
	評価　健康	情緒　財産　主義	親子	職業　評価
	職業　財産			
3.80	情緒	親族　職業	主義	財産　情緒
	親子	知的　評価		運動　親族
3.60			財産　情緒　知的	住居
			親族　住居	
		住居	評価　運動　職業	
3.40	住居　社会	社会		性　地域　社会
	知的　親族	地域	地域　社会	

(b)成人後期

	青年期	成人前期	成人後期	老年期
4.40				
			配偶者	
4.20	配偶者		健康　親子	健康　配偶者
	健康			
4.00	財産　主義　親子	配偶者　健康	財産	親子
			住居　親族	職業　主義
3.80	情緒	財産　親子		財産　住居
	評価　住居	親族	情緒　主義	評価
3.60	職業	情緒　住居	運動　職業	情緒　親族
	親族　地域		評価	運動　知的　社会　地域
3.40	故郷	主義　地域	地域　知的	
		職業　評価	社会　故郷	

る者は、成人前期にある者同様、多くの課題を重くみている。

具体的な課題についてみると、多くのライフステージにある男性が成人前期の男性に重要な課題として共通に重視しているのは、「健康・体力」「配偶者とのかかわり」「親子のかかわり」「主義や信念」などである。

「主義や信念」は、とくに青年期および老年期にある者によって「配偶者とのかかわり」と並ぶ成人前期の最重要課題とみなされているが、成人前期および後期にある者によってはそこまで重く評価されておらず、「健康・体力」「配偶者とのかかわり」「親子のかかわり」といった最重要課題に準ずる課題として位置づけられている(青年期：4.08、成人前期：3.94、成人後期：3.84、老年期：4.11)。

青年期にある者によって「主義や信念」と並ぶ第1位の最重要課題とみなされた「配偶者とのかかわり」は、成人前期以降にある者によっても「健康・体力」と並ぶ最重要課題とみなされている(青年期：4.08、成人前期：4.09、成人後期：4.04、老年期：4.37)。

「健康・体力」は、青年期にある者によっては成人前期の最重要課題に準ずる課題として第4位に位置づけられているが、成人前期以降にある者によっては「配偶者とのかかわり」をもやや凌ぐほどの成人前期の最重要課題とみなされている（青年期：3.94、成人前期：4.17、成人後期：4.05、老年期：4.44)。

同じく「親子のかかわり」は青年期にある者によっては成人前期に重要な課題として8位に位置づけられているが、成人前期以降にある者によっては「健康・体力」「配偶者とのかかわり」に次ぐ3位の評定を与えられ、最重要課題の1つとみなされている(青年期：3.74、成人前期：4.03、成人後期：3.91、老年期：4.13)。

また、「人からの評価や評判」は、青年期にある者によっては成人前期に重要な課題として3位に位置づけられ最重要課題の1つとみなされているが、成人前期および後期で10位、老年期では数値は高いものの7位となっており、実際に成人した者によっては成人前期の最重要課題とはみなされていない（青年期：3.95、成人前期：3.72、成人後期：3.53、老年期：3.91)。

「財産・収入」は4つのライフステージのいずれにある者によっても成人前期に重要な課題として4～8位に位置づけられており、共通してかなり重要な課題とみなされているが、とくに今まさに成人前期にある者によっては、4.0と最重要課題に属する評定を与えられている（青年期：3.90、成人前期：3.99、成人後期：3.69、老年期：3.83)。

「知的能力や学歴」は、青年期にある者によっては成人前期の課題としてはあまり重視されていないが、成人前期以降にある者によっては成人前期の課題としてかなり高い評定が与えられており、とくに老年期にある者によっては成人前期の最重要課題の1つとみなされている（青年期：3.36、成人前期：3.76、成人後期：3.65、老年期：4.07)。

同様に「親族とのかかわり」も、青年期にある者によっては成人前期の課題としてはあまり重視されていないが、成人前期以降にある者によっては成人前期の課題としてかなり高い評定が与えられている（青年期：3.31、成人前期：3.83、成人後期：3.65、老

年期：3.72)。

(2) 成人後期の男性において重要な課題

成人後期に重要な課題をみると（Table 3(b))、4.0以上の重要度の評定は、青年期および成人前期にある男性によりそれぞれ2つ、成人後期男性により4つ、老年期男性により3つの課題に対して与えられている．やはり、今まさに成人後期にある者のほうが他のライフステージにある者よりも各課題の成人後期における重要度を重く受けとめていることがここでも確認された。

具体的な課題についてみると、多くのライフステージにある男性が成人後期の男性に重要な課題として共通に重視しているのは、「配偶者とのかかわり」「健康・体力」「親子のかかわり」「財産・収入」などである。

「配偶者とのかかわり」は、青年期から成人後期にある者により、成人後期の最重要課題として第1位に位置づけられており、老年期にある者によってもわずかに「健康・体力」を下回るもののほぼ同水準の2位の評定を与えられ、いずれにおいても最重要課題とみなされている(青年期：4.10、成人前期：4.08、成人後期：4.39、老年期：4.22)。

「配偶者とのかかわり」と並ぶ成人後期における最重要課題は「健康・体力」であり、これは青年期から成人後期にある者により「配偶者とのかかわり」にほぼ並ぶ第2位に位置づけられており、老年期にある者によっては「配偶者とのかかわり」を上回る第1位の評定を与えられている(青年期：4.08、成人前期：4.05、成人後期：4.28、老年期：4.28)。

「親子のかかわり」や「財産・収入」も、成人後期における重要課題として、いずれのライフステージにある者によっても共通に重視されている。すなわち、「親子のかかわり」は、青年期にある者により5位、成人前期にある者により4位、成人後期および老年期にある者により3位の評定が与えられており、数値そのものをみても成人後期以降にある者による評定は4.0以上となっており、実際に成人後期を経験中あるいは経験した者によっては3つの最重要課題の1つに数えられている(青年期：3.90、成人前期：3.85、成人後期：4.20、老年期：4.00)。

「財産・収入」は、青年期および成人前期にある者により3位と最重要課題の1つに数えられているが、成人後期にある者では4位、老年期にある者では6位と順位は下がるものの、数値そのものはいずれも4.0前後と高く、とくに今まさに成人後期にある者によっては4.0を越える最重要課題の1つとみなされている(青年期：3.97、成人前期：3.85、成人後期：4.04、老年期：3.89)。

「親族とのかかわり」は、成人後期以外のライフステージにある者によっては成人後期における最重要課題というほどの評定は与えられていないが、今まさに成人後期にある者によっては3.9を越える最重要課題の1つとみなされている（青年期：3.59、成人前期：3.70、成人後期：3.91、老年期：3.63)。

「住居」も、成人後期における課題として、成人後期以外のライフステージにある者

によっては最重要課題というほどの評定は与えられていないが、今まさに成人後期にある者によっては3.9を越える最重要課題の１つとみなされている（青年期：3.77、成人前期：3.62、成人後期：3.91、老年期：3.81）。

「職業や社会的地位」は、成人前期にある者によっては成人後期における課題としてはあまり重視されておらず、青年期や成人後期にある者によってもとくに重要な課題というほどには重視されていないが、すでに成人後期を経験し終えている老年期にある者によっては4.0の評定が与えられ、成人後期の最重要課題の１つとみなされている（青年期：3.67、成人前期：3.33、成人後期：3.64、老年期：3.98）。

「主義や信念」は、青年期や老年期にある者によっては3.9を越える評定が与えられ、成人後期の最重要課題の１つに数えられているが、今まさに成人後期にある者によってはそれほど高く評価されておらず、成人前期にある者によってもあまり重要な課題とはみなされていない（青年期：3.95、成人前期：3.47、成人後期：3.73、老年期：3.94）。

(3) 成人前期の女性において重要な課題

Table 4 は、女性において重要度を高く評定された課題を並べたものである。成人前期に重要な課題を見ると（Table 4 (a)）、4.0以上の重要度評定は、青年期女性により５つ、成人前期女性により４つ、成人後期女性により３つの課題に対して与えられている。老年期女性によって4.0以上の重要度評定を与えられた課題はなかった。今まさに成人前期にある者やこの先成人前期を迎えようという青年期にある者は、成人前期における各課題の重要度を重くみているが、成人後期や老年期にある者、すなわち成人前期をすでに経験し終えた者によっては、あまり重く受け止められていないことがわかる。

具体的な課題についてみると、多くのライフステージにある女性が成人前期の女性に重要な課題として共通に重視しているのは、「配偶者とのかかわり」「健康・体力」「親子のかかわり」「財産・収入」などである。

「配偶者とのかかわり」は、青年期から成人後期にある者により成人前期に重要な課題として第１位に相当する評定を与えられている。老年期にある者による評定は、「健康・体力」「親子のかかわり」に次ぐ３位ではあるものの、数値は3.5を下回っている（老年期にある者による評定は、全体的にかなり低くなっている）（青年期：4.24、成人前期：4.32、成人後期：4.19、老年期：3.48）。

「健康・体力」と「親子のかかわり」は、青年期から成人後期にある者によって4.0を越える高い評定を与えられ、まったく同水準で２位ないし３位を占めている。「健康・体力」は、老年期にある者によっても3.9を越える高い評定を与えられ、いずれのライフステージにある者によっても成人前期の最重要課題としてみなされている（青年期：4.17、成人前期：4.15、成人後期：4.17、老年期：3.94）。「親子のかかわり」は、老年期にある者によって成人前期の課題として「健康・体力」に次ぐ２位に位置づけられているものの、数値そのものはあまり高くない（青年期：4.15、成人前期：4.32、成人後期：4.14、老年期：3.62）。

Table 4　成人期に重要な課題（女性）

(a)成人前期

	青年期	成人前期	成人後期	老年期
4.40				
		配偶者　親子	配偶者　健康　親子	
4.20	配偶者			
	健康　親子	健康		
4.00	財産　情緒	財産		
	主義	情緒	財産	健康
3.80		親族　住居	親族	
	親族　住居　社会	主義	情緒　住居	
	地域　職業			
3.60	評価	地域	主義　運動　地域	親子
	知的　故郷		知的　評価	
3.40		評価　故郷　知的　職業	職業　社会	配偶者　親族　運動
		社会	故郷	財産

(b)成人後期

	青年期	成人前期	成人後期	老年期
4.40				
	親子　配偶者		健康　配偶者	
4.20	健康		親子　財産	
4.00	財産　地域	健康　配偶者	住居	
	親族　住居	親子	親族	
3.80	情緒	財産	情緒　地域	健康
	社会　主義			配偶者
3.60	故郷	情緒　住居　親族		親子
	評価	地域	主義　運動	財産
			評価　故郷	
3.40	職業	主義	社会	親族　運動　住居
		故郷	職業	

「財産・収入」は、青年期から成人後期にある者により成人前期に重要な課題として4位に位置づけられており、数値的にも4.0前後で最重要課題の1つとみなされている（青年期：4.05、成人前期：4.04、成人後期：3.92、老年期：3.36）。

「情緒的・性格的な問題」は、青年期および成人前期にある者により4.0前後（5位）と成人前期の最重要課題の1つに位置づけられており、成人後期にある者によっても数値ほどそれほど高くないものの6位とかなり重視されている（青年期：4.03、成人前期：3.96、成人後期：3.78、老年期：3.18）。

「主義と信念」は、青年期にある者によっては3.9を越える評定を与えられ、成人前期の最重要課題の1つに位置づけられているが、成人前期および後期にある者によって

はそれほど高い評定は与えられていない（青年期：3.94、成人前期：3.79、成人後期：3.65、老年期：3.16）。

「親族とのかかわり」および「住居」は、青年期から成人後期にある者によって3.7～3.9（5位～7位）の評定が与えられ、成人前期におけるかなり重要な課題とみなされている(「親族とのかかわり」：青年期：3.79、成人前期：3.84、成人後期：3.83、老年期：3.44、「住居」：青年期：3.74、成人前期：3.81、成人後期：3.74、老年期：3.14)。

「社会・政治とのかかわり」「職業や社会的地位」「人からの評価や評判」などは、青年期にある者によっては成人前期におけるかなり重要な課題とみなされているが、実際に成人前期を経験しているあるいは経験し終えた者によってはあまり重要な課題とはみなされていない。

(4) 成人後期の女性において重要な課題

成人後期に重要な課題をみると（Table 4 (b)）、4.0以上の重要度の評定は、青年期女性により7つ、成人前期女性により2つ、成人後期女性により5つの課題に対して与えられている。老年期女性によって4.0以上の評定を与えられた課題はなかった。今まさに成人後期にある者によって各課題の成人後期における重要度が重く受けとめられていることがここでも確認されたが、青年期にある者も同様に成人後期における各課題の重要度を重く受けとめていることがわかる。

具体的な課題についてみると、多くのライフステージにある女性が成人後期の女性に重要な課題として共通に重視しているのは、「健康・体力」「配偶者とのかかわり」「親子のかかわり」「財産・収入」などである。

「健康・体力」は、成人前期以降にある者によって成人後期に第1に重要な課題に位置づけられており、青年期でも第3位とはいっても4.0を越える高い評定値が与えられ成人後期における最重要課題の1つとみなされている（青年期：4.26、成人前期：4.07、成人後期：4.39、老年期：3.84）。

「親子のかかわり」は、青年期にある者により成人後期の最重要課題として第1位に位置づけられ、成人前期以降も第2位と最重要課題の1つとみなされている（老年期にある者による評定値は全体に低いので、「親子のかかわり」に関しても3位ではあっても評定値はそれほど高くない)(青年期：4.38、成人前期：3.93、成人後期：4.25、老年期：3.66)。

「配偶者とのかかわり」は、すべてのライフステージにある者により第2位の評定値を与えられており、成人後期の最重要課題の1つとみなされている（青年期：4.37、成人前期：4.01、成人後期：4.31、老年期：3.74）。

「財産・収入」は、すべてのライフステージにある者によって第4位に相当する評定が与えられており、やはり成人後期の最重要課題の1つに数えられている(青年期：4.08、成人前期：3.84、成人後期：4.21、老年期：3.56)。

「地域・近隣とのかかわり」は、青年期にある者によっては4.0を越える非常に高い

評定値を与えられ、成人後期の最重要課題の１つとみなされているが、実際に成人した者たちによっては最重要課題というほどの位置づけはなされていない（実際に成人後期にある者によっては、3.75とかなり重視されてはいるが）（青年期：4.03、成人前期：3.57、成人後期：3.75、老年期：3.18）。

「親族とのかかわり」は、青年期にある者によっては4.0という非常に高い評定を与えられ、成人後期にある者によっても3.9を越える評定を与えられ、成人後期の最重要課題の１つとみなされているが、成人前期および老年期にある者によってはそれほど成人後期に重要な課題とはみなされていない（青年期：3.99、成人前期：3.60、成人後期：3.94、老年期：3.46）。

「住居」も、青年期および成人後期にある者により4.0以上の非常に高い評定が与えられ、成人後期の最重要課題の１つとみなされているが、成人前期および老年期にある者によってはそれほど成人後期に重要な課題とはみなされていない（青年期：3.99、成人前期：3.65、成人後期：4.07、老年期：3.46）。

「情緒的・性格的な問題」は、青年期から成人後期にある者によって成人後期においてかなり重要な課題とみなされている（青年期：3.87、成人前期：3.67、成人後期：3.75、老年期：3.10）。

以上にみてきたように、男性では成人前期の最重要課題として「健康・体力」「配偶者とのかかわり」「親子のかかわり」「主義や信念」の４つ、成人後期の最重要課題として「配偶者とのかかわり」「健康・体力」「親子のかかわり」「財産・収入」の４つがあげられる。女性では、成人前期・成人後期とも最重要課題として「配偶者とのかかわり」「健康・体力」「親子のかかわり」「財産・収入」の４つがあげられる。したがって、「配偶者とのかかわり」「健康・体力」「親子のかかわり」の３つは、男女とも、成人前期・後期に関わらず、成人期を通して最も重要な課題であるといえる。「主義や信念」は男性においてのみ成人前期に最重要課題に属し、「財産・収入」は男性では成人後期の、女性では成人期全般の最重要課題に属する。

Havighurst（1953）は、壮年期（成人前期）の課題として配偶者の選択、配偶者との生活を学ぶこと、第１子を家族に加えること、子どもの養育、家庭の管理、職業に就くこと、市民的責任を負うこと、適した社会集団をみつけること、中年期の課題として大人としての市民的責任の達成、一定の経済的生活水準の獲得と維持、子どもたちの成長の援助、大人の余暇活動の充実、配偶者との人間的な結びつきの確立、生理的変化の受容とそれへの適応、年老いた両親への適応をあげている。これをみると、「配偶者とのかかわり」「親子のかかわり」に相当するものが大半を占めている。「財産・収入」に関連するものも含まれている。成人後期においては、「健康・体力」に相当するものも含まれている。Erikson（1950）は成人初期の課題として親密性をあげており、壮年期（成人後期）の課題として生殖性をあげているが、前者は「配偶者とのかかわり」に通じ、後者は「親子のかかわり」に通じる。Peck（1975）は、中年期の危機として、体力の危

機、性的能力の危機、対人関係の危機、思考の危機をあげているが、体力の危機は「健康・体力」に、性的能力の危機は「親子のかかわり」および「配偶者とのかかわり」に通じる。こうしてみると、本研究で得られた結果は、従来の知見に沿ったものであるといえる。

このように成人期の各ライフステージにおいてとくに重要な課題を抽出することができたが、同時に発達課題として各ライフステージに重要な課題を配列することの困難さも見出された。すなわち、それぞれのライフステージに各課題がどの程度重要であるかの評定は、評定者自身が現在生きているライフステージにより異なることが明らかとなった。そのひとつとして、今直面している課題を過去あるいは将来において直面するであろう課題よりも重大視する傾向が強くみられるとともに、女性では青年期にある者がその後のライフステージにある者よりも各ライフステージにおける各課題の重要度を高く評価し、男性では逆に老年期にある者がそれ以前のライフステージにある者よりも各ライフステージにおける各課題の重要度を高く評価する傾向がみられた。さらに、男性の成人前期および後期、あるいは女性の成人前期の課題に関して、青年期にある者が「主義や信念」の重要度をとくに高く評価していることで明らかなように、今現在生きているライフステージの色調が他のライフステージにおける各課題の重要度の評定に反映される。青年期にある者にとっての今後来るべき成人期の発達課題のもつ意味と、現在成人期にある者にとっての目の前に突きつけられている発達課題のもつ意味と、老年期にある者が過去を振り返るときの成人期の発達課題のもつ意味が異なるのは自明のことであろう。したがって、ある特定のライフステージの発達課題を論じる場合も、現在どのライフステージにある者にとっての意味を問題とするのかという視点を無視することはできない。

本研究では成人期に重要となる典型的な課題の抽出を試みたが、成人期においては人生のあり方の個人差が大であり、平均値をみるだけではつかみきれない部分が大きい。職業につくかどうか、結婚するかどうか、子どもを持つかどうかなどによって、課せられる重要な課題は様相を異にするはずである。したがって、対象となる人々をいくつかの層に分けた検討が必要であろう。さらに、卒業、就職、結婚、子の誕生、子の入学、子の就職、子の独立、子の結婚、親との死別、退職、配偶者との死別など、多くの者が経験する人生上の出来事であっても、その訪れる時期や順序は人によって異なってくる。また、病気、事故、家族や隣人あるいは仕事相手や職場の人間とのトラブル、仕事上のトラブルなど、偶然起きたあるひとつの出来事がその時期およびその後の発達を大きく方向づけるということもある。本研究のように、一定の文化のもとにおける多くの人々に共通する発達像をかたどることにも意義があるものと考えられるが、個人の人生の理解には人生史上のひとつひとつの、ときには偶発的に個人に課せられる課題を無視することはできない。そこで、Levinson (1978) のような個人史的な研究により人生上の個々の課題の与える影響を検討するという方向で補っていく視点も必要であろう。

文献

Baltes, P. B. 1987 Theoretical propositions of lifespan developmental psychology. Developmental Psychology, 23, 611－626.

Cantor, N., Norem, J. K., Niedenthal, P. M., Langston, C. A., & Brower, A. M. 1987 Life tasks, self-concept ideals, and congnitive strategies in a life transition. Journal of Personality and Social Psychology, 53, 1178－1191.

榎本博明　1987　青年期(大学生)における自己開示性とその性差について　心理学研究, 58, 2, 91－97

Erikson, E. H. 1950 Childhood and society. New York: Norton. (1963 2nd ed.仁科弥生訳 1977/1980 幼児期と社会Ⅰ/Ⅱ みすず書房)

Erikson, E. H.(Ed.) 1978 Adulthood. New York: Norton.

Havighurst, R. 1948 Developmental tasks and education. New York: Mckay.

Havighurst, R. 1953 Human Development and education. New York: Longmans, Green. (荘司雅子監訳 1995 人間の発達課題と教育 玉川大学出版部)

Heymans, P. G. 1994 Developmental tasks: A cultural analysis of human development. In J. J. F. Laak, P. G. Heymans, & A. I. Podol'skij(Eds.) Developmental tasks: Towards a cultural analysis of human development. Pp.3－33. Netherlands: Kluwer Academic Publishers.

Levinson, D. J. (With Darrow, C. N., Klein, E. B., Levinson, M. H., & Mckee, B.) 1978 The seasons of a man's life. New York: Knopf. (南博訳 1978 人生の四季 講談社)

Neugarten, B. L. & Datan, N. 1973 Sociological perspectives in the life cycle. In P. B. Baltes & K. W. Schaie(Eds.) Life-span developmental psychology. Pp.53－69. New York: Academic Press.

Oerter, R. 1986 Developmental tasks through the life span: A new approach to an old concept. In P. B. Baltes, D. L. Featherman, & R. M. Lerner(Eds.) Life-span development and behavior. Vol.7, Pp.233－269. Hillsdale: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

Peck, R. E. 1975 Psychological developments in the second half of life. W. C. Sze(Ed.) Human life cycle. Pp.609－625. Jason Aronson.

Wadsworth, M. & Ford, D. H. 1983 Assessment of personal goal hierarchies.. Journal of Counseling Psychology, 30, 514－526.

Zirkel, S. & Cantor, N. 1990 Personal construal of life tasks: those who struggle for independence. Journal of Personality and Social Psychology, 58, 172－185.

Developmental tasks in adulthood

Hiroaki ENOMOTO

The purpose of this paper is to report on data from a study as to the developmental tasks in adulthood. Subjects were 795 adult people ranging from 20 to 88 year of age, drawn by multistage sampling from the citizens of Nagoya in Japan. Subjects rated the importance of 18 developmental tasks of adulthood.

Results showed that the main tasks of men were "health or physical vigor", "relation with spouse", "relation with parents or children" and "principles of life" for early adulthood, "relation with spouse", "health or physical vigor", "relation with parents or children" and "property or income" for late adulthood, and of women were "relation with spouse", "health or physical vigor", "relation with parents or children" and "property or income" for both early and late adulthood. Also it was found that the importance of each developmental tasks for early or late adulthood were rated differently according to the life stage of subjects.

Key words : developmental tasks, adulthood, life stage